

CSRの戦略的な展開に向けた企業の対応に関する調査研究

(報告書の概要)

我が国のCSR活動においては、1970年代の公害問題への対応、1990年代のフィランソピー（社会貢献活動）ブームを経て、2003年の「CSR元年」を境に環境、コンプライアンスなどの社会的責任への取り組みを中心に行われてきた。欧米諸国に於いては、リーマンショック後、金融資本主義が見直され、株主中心ではない新たな経営戦略を世界中の企業が模索している中、地球規模全体のサステナビリティを課題とするCSRを積極的且つ長期的に企業経営に組み込む動きが加速し、今後のグローバル経済下での成長戦略のカギになることが予想されている。

これまでの我が国企業のCSR活動は、「個別領域毎のリスク対応のCSR」に偏りがちな傾向が見られ、CSRを企業活動の根幹に据える「戦略的CSR」への欧米企業の動きをフォローし、新たな展開を図っていくことが求められる。

本調査では、サステナビリティ経営を軸とする欧米の動向を調査するとともに、国内外18社の先進事例を分析し、「戦略的CSR」が事業戦略のうえでどのような切り口に位置づけられているかを把握し、研究会を実施し議論を重ねた。それらを踏まえ、我が国企業と政府に対し4つの提言を行った。

(報告書の主要構成)

- (1) 企業を取り巻く経営環境の変化とCSRの重要性
- (2) CSRを巡る国内外の動向
- (3) 企業価値創造をもたらす戦略的CSRの意義
- (4) 戦略的CSRの国内外先進企業事例
- (5) CSRの戦略的な展開の手法と経営への効果
- (6) 戦略的CSRの展開に向けての提言